

ウィーン工科大学での研究滞在を終えて  
物理工学専攻今田研究室 博士2年 窪田大

2016年9月14日から12月15日まで、ウィーン工科大学の Karsten Held グループに研究滞在した。ここでは Held 教授の他、Liang Si 氏と共に電子相関とスピン軌道相互作用が引き起こす磁気異方性についての数値計算を行い、スピン軌道相互作用の存在下で電子相関が磁化容易軸を容易に変えうることを明らかにした。Held 教授や Si 氏とは現在も議論を続けており、更なる研究を推し進めている。

また、グループの人々との議論を通して様々な発見があったことや、自身の研究内容の発表機会を得るなど、大変有意義な経験となった。更に、ちょうど現地で開催されていたワークショップと autumn school にも参加させていただき、専門外の計算手法などについても身につける機会が得られた。

今回の海外派遣の支援をしていただいた今田教授と ALPS 事務の皆様、そして滞在を親切に迎え入れてくれた Held 教授とグループの方々には深く御礼申し上げます。



Held グループでのハイキングにて